

評価委員会「次期中期目標策定へ盛り込むべき視点等」意見（集約）

令和4年11月

全般について

- これまでの地域貢献の蓄積を活かし、実践的に未来を切り拓いてほしい。時代の大きな変化を捉え、デザインの力で、より魅力ある地域を創り出していきたい。

「教育」関係について

- 公衆衛生看護学専攻科開設やAI研究とDNA推進を考慮した教育カリキュラムの再検討や発展に期待。
- 社会人入学や留学生など多岐にわたる人を教育対象とする場合は、例えば、社会人であれば、学業と仕事との両立可能な授業の時間帯や、留学生であれば、住む場所や奨学金・アルバイト先の確保など、課題とその対応を併せて検討し、多様性を尊重し実効力のあるものとしてほしい。
- 近年、世界的に、コロナ禍やウクライナでの戦争等、生命や健康、人権など多くの課題が、人類に突きつけられている。本学の教育は、根底となる人権への理解と、人類の未来についての深い考察を行う人材を育て、未来を切り開く人材を育てるための教育カリキュラムが必須。
- また、環境への関心を深め、持続可能な地域創りに取り組むための実践的教育も急がれる。

「研究」関係について

- AITセンターの開設、DNAの先進的研究は、例えば、高齢化がもたらす医療・介護分野の課題解決のため、AI・IT技術やロボット活用技術の研究、産学官連携による製品化・普及など、札幌市の経済発展の強みとなり、大きく期待。
- また、デザインの力で社会の仕組みの再構築や、AITを用いた医療と介護の相互連携など課題解決のモデル化・普及により、医療機関及びICT関連企業の集積地である札幌の発展につながっていく可能性があり、期待できる。
- 海外交流が制限される中、海外の論文誌での論文発表は評価でき、投稿の持続が望まれる。

「地域貢献」関係について

- 市役所の課題解決に学生が参加するなど、外部資金に頼らない継続的な地域貢献の仕組みを導入していただきたい。
- 公衆衛生看護学の開設は、まちづくりの基本目標「こども若者」を実現するための人材育成として期待できる。さらに、人材の活躍の場として、子供が抱える問題の相談窓口や居場所機能の充実のため、区役所や各児童会館等に「こども育成マネージャー」を派遣し、「安心して子どもを産み育てることができる、子育てに優しいまち」の実現につなげるような、公衆衛生看護学を学んだ人材が積極的にこどもを育てる仕組みづくりに携わるよう取り組んでいただきたい。
- 札幌圏の産学官連携の中心となっていきたい。札幌圏に集積される様々な研究機関、多くの企業をネットワークで繋ぎ、将来に向けたプロジェクトの円滑な運営を行う「かなめ」が必要であり、これまで地域貢献を行って来た実績や人脈を活用してほしい。
また、AITを用いて研究情報の共有化や、産学の技術を時代や社会のニーズに対して提案することができ、組織運営全体に活かすことが可能。大学組織を挙げた積極的な連携活動に期待する。

「大学運営」関係について

- 大学運営手法の次の発展段階として、3つのポリシー（学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー））のチェック機構としてのアセスメントポリシーの設定が期待されます。
- SDGsの推進は、社会全体の重要な目標であることから、組織的なエネルギー削減や持続可能なエネルギー創出の計画が必要。